

III SDGsへの取組

III-1 琉球大学のSDGsへの取組み

(1) SDGsと琉球大学の基本理念

2015年9月の国連総会において、「Leave no one behind（誰一人取り残さない）」という考えのもと、「持続可能な発展のための2030アジェンダ」に記載された持続可能な開発目標（Sustainable Development Goals; SDGs）が採択されました。琉球大学においては、2007年に「琉球大学憲章」を制定し、その基本理念に基づき、持続可能な地域社会の発展に向けた取組を推進してきました。



SDGsに関連する国内外における様々な状況を踏まえ、2019年6月に「琉球大学におけるSDGsへの取組みについて」として、学長メッセージを琉球大学公式ホームページで公表しました。

琉球大学のSDGsへの取組みを本格的に推進するため、2020年2月、SDGs推進室を設置し、SDGs推進室の中に置かれた「教育」、「研究」、「社会貢献」及び「業務ガバナンス」の4つワーキンググループ（以下「WG」という。）を中心にSDGsに関連する取組みを展開しています。2022年2月には、SDGs推進室の4つのWG等が相互に連携し、本学におけるカーボンニュートラルに関する取組を推進することを目的として、「カーボンニュートラル推進チーム」を設置し、取組実施に向けた議論をスタートさせています。

琉球大学におけるSDGsへの取組みについて

本学は、SDGsの達成に貢献する活動に取り組み、様々なパートナーと積極的に連携し、持続可能な社会の実現に向けて行動します。

2019年6月 琉球大学 学長 西田 睦



評価指標

THEインパクトランキング 総合（国内33位タイ、世界601-800位）

- ・ SDG1：貧困をなくそう（国内4位タイ、世界101-200位）
- ・ SDG14：海の豊かさを守ろう（国内4位、世界101-200位）
- ・ SDG15：陸の豊かさを守ろう（国内4位、世界101-200位）

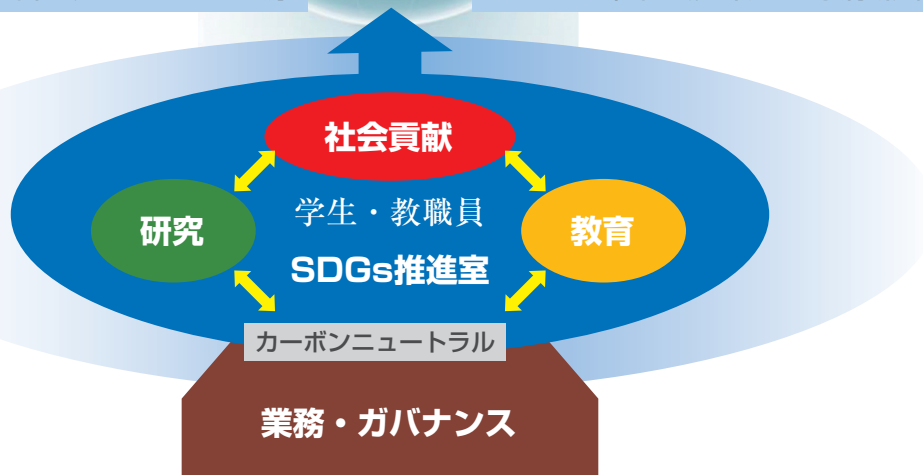
SDGs学内アンケート

- ・ SDGs理解度、SDGs関連の教育、研究、社会貢献の活動など

地域とともに豊かな未来社会をデザインする大学

University of the Ryukyus

アジア・太平洋地域の卓越した教育研究拠点大学



Ⅲ-2 SDGsに係る中期目標・中期計画 (2022~2027年度)

第4期中期目標期間(2022~2027年度)における琉球大学の中期目標・中期計画の中に、「SDGs達成への貢献」が盛り込まれており、中期目標・中期計画の達成に向け、様々な取組を推進していきます。

中期目標

地域の人々が、島嶼という隔てられた空間において限られた資源を大切に活用し、持続的に生存するために相互に支え合いつつ培ってきた智慧、いわゆる“Island wisdom”を基盤とした教育研究活動を推進するとともに、学内外のステークホルダーとの連携・協働による取組を強化することにより、持続可能な開発目標(SDGs)の達成に貢献する。

中期計画

沖縄そして世界が直面する経済格差の拡大や気候変動などの課題解決に繋げるため、SDGsの観点を取り入れた教育研究活動等を推進するとともに、学内外の多様なステークホルダーとの連携・協働を通して得られた知見と成果を積極的に発信する。

“Island Wisdom”

琉球大学には、“持続可能な社会の形成”というSDGsと同一の発想をもつ独自のワードがあります。それが、“Island Wisdom”です。

琉球大学の中期将来ビジョンでは、

「島嶼に暮らす人々が、その環境をつくりだすとともに、折り合いをつけながら、時に海を越えた交易を交えつつ、生き続けてきた中で体得した経験と智慧」

「島嶼という限られた空間、資源の中で持続的に生活をしていくための智慧」

として、“Island Wisdom”を位置付けています。

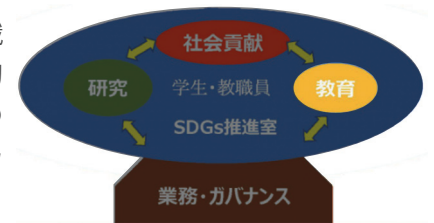
経済格差の拡大や気候変動などの「世界が直面する課題」そして、少子化、高齢化、地域の過疎化などの先例のない「課題先進国・日本が有する課題」があるなか、これらの課題を解決し、地球上の全ての人々が人間らしく幸福に生きることのできる社会を実現するために、“Island Wisdom”を新たな発展の可能性として提示することを琉球大学は使命としており、その実行のためのビジョン・アクションプランを公表しています。

【琉球大学の中期将来ビジョン】 <https://www.u-ryukyu.ac.jp/chuki-vision/>



Ⅲ-3 教育WGの取組み(1)

琉球大学でSDGsへの達成に向けた取組みを展開するために、学生・教職員がSDGsとは何なのか、なぜSDGsの達成に取り組むのかといった基本的なSDGsの知識を身に付け、理解を深め、その上でSDGsを理解するための学習・教育の場を創出・参画し、実践していくことを教育WGでは目指しています。



(1) ワークショップの開催

SDGs 教育連携ネットワークシンポジウム(2022年3月19日開催)で、「SDGsの達成に向けた教育実践」、「高校での探究的な学びの充実」、「国際保健に関するESDの推進」、「琉球大学学生のSDGs学習分析」の4つのテーマについて、沖縄県内教育関係者や生徒・学生などが参加したテーマ別ワークショップを開催し、議論を深めました。



(2) 高大接続の取組

高大連携によるSDGs推進として高校生対象の「沖縄未来社会創生シンポジウム:Okinawa Future Society Initiative Symposium(OFSIS)」は、沖縄県内の高校生が貧困・平和・環境・災害・観光・文化

などの様々な社会的な課題をテーマにした探求の成果を発表し、学校を越えた生徒の交流の場となっています。

また、大学教員・大学院生、中高教員等も参加し、研究内容のまとめ方などSDGsをキーワードとした活発な意見交換がなされています。

オープンキャンパスでは、ポスター展示と動画配信を行い高校生に、琉球大学のSDGsの取組を紹介しました。



◀ オープンキャンパス ポスター展示

Ⅲ-3 教育WGの取組み (2)

(3) 大学での講義

共通教育等科目として5科目（グローバルSDGs概論、ヒューマニティ系SDGs演習、マネジメント系SDGs演習、ライフサイエンス系SDGs演習、エンジニアリング系SDGs演習）を提供し、体系的と質保証を伴ったSDGs関連科目を構成しています。その他にも、様々なところでSDGsに関わる教育活動を行っています。

表 SDGsを学ぶ教育活動

対象	活動内容
高大接続	<ul style="list-style-type: none"> ・オープンキャンパス ・出前授業や探究授業の支援 ・ユネスコスクール支援大学間ネットワーク（ASPUnivNet） ・ウェブサイト「琉大SDGs」から情報発信
学部（低学年）	<ul style="list-style-type: none"> ・共通教育科目のSDGs科目 ・副専攻（グローバル津梁、環境総合学、地域創生）
学部（高学年）	<ul style="list-style-type: none"> ・SDGs関連科目
大学院	<ul style="list-style-type: none"> ・様々な研究活動
学生の主体的活動	<ul style="list-style-type: none"> ・エコ・キャンパス ・日本模擬国連（通称：JMUN） ・Hult Prize
企業人など多様な人々との協働学修	<ul style="list-style-type: none"> ・包括協定の活用
大学間連携	<ul style="list-style-type: none"> ・大学コンソーシアム沖縄SDGs委員会 ・大学コンソーシアム沖縄 子どもの居場所学生ボランティア

(4) ユネスコスクール活動支援

琉球大学は、ユネスコスクール支援大学間ネットワーク（ASPUnivNet）に加盟しており、沖縄県教育庁と連携して、沖縄県内のユネスコスクールおよび加盟を目指す学校とワークショップ等を通じたネットワークを構築し、加盟申請の支援やSDGsの達成を目指してESDに取り組む学校に対しての実践支援を行っています。

県内のユネスコスクール加盟校

平成24年 北谷町立北谷中学校
平成25年 金武町立中川小学校
令和元年 KBC学園未来高等学校沖縄

ESDの推進
拠点

キャンディテート校：浦添市立前田小学校
チャレンジ期間を終了し国内審査を終え、
UNESCO本部に申請中（または行方）段階

■ ユネスコスクールは、ユネスコ憲章に示されたユネスコの理念を実現するため、平和や国際的な連携を実践する学校（世界182か国で11,500校以上がASPnetに加盟）

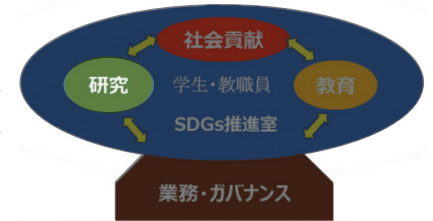
■ 日本国内では1,120校の幼稚園、小学校・中学校・高等学校及び教員養成系大学がこのネットワークに参加（2019年11月現在）





Ⅲ-4 研究WGの取組み

SDGsの達成には大学の広範な貢献が必要とされていますが、中でもSDGsに関する研究は、大学が担うSDGsへの貢献の大きな柱の一つとされています。本学のSDGsに関する研究の推進・支援を目的に、SDGs推進室のもとに研究WGが設置され、SDGs推進室の発足とともに活動を展開しています。



(1) 琉球大学 SDGs 社会課題解決研究プロジェクト

令和3年度は、沖縄県との連携のもと、学内公募の戦略的研究推進経費事業「SDGs研究プロジェクト」を発展させ、「琉球大学 SDGs 社会課題解決研究プロジェクト」を新たに開始しました。応募件数は20件以上と、本学のSDGs研究の大きなポテンシャルを感じ取ることができました。これらの中から6件の課題を採択し支援を行いました。年度末には成果報告として各課題代表者に動画を作成いただき、学内ホームページで公開しています。

表 2021年度 SDGs 研究プロジェクト採択課題

部局	研究課題
教育学部	高品質水供給システムの開発と応用展開
理学部	Utilizing eDNA to assess and conserve coral reef biodiversity in Okinawa
理学部	湧水「瑞泉」の保全と利用の多角化
理学部	「環境科学」×「経営工学」による廃棄物処理工場の次世代スマート型システムの開発
農学部	環境に配慮した帯状伐採による収穫跡地の早期再森林化技術の検討ー多種、多様な樹種が共存する更新技術の提案ー
農学部	ZEAL (Zero Energy Agriculture and Livestock) プロジェクトー沖縄県内の畜産施設におけるゼロエネルギー化に向けた予備実験ー

(2) 琉大 SDGs 第2回研究シンポジウム

2022年3月10日に、沖縄の社会課題について大学の知をどう活用できるかをメインテーマに、「琉大 SDGs 第2回研究シンポジウムーしまの知を横断し 社会とつながり しまの課題に取り組もうー」を開催しました。Zoomによるオンライン開催で、参加者数は合計40名を数えました。JST SOLVE for SDGs プログラム総括補佐の川北秀人氏を招き、「沖縄の持続可能性を高めるためにー研究成果で課題解決・価値共創に挑むプロジェクトづくりに向けて」と題して、基調講演いただいたほか、グループワークセッションを設けて参加者全員で沖縄の社会課題について議論しました。

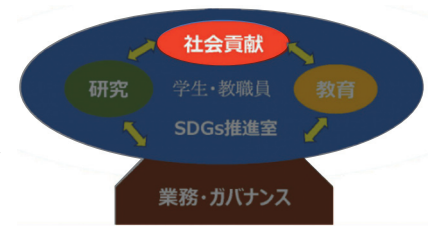
(3) その他情報発信やシーズ発掘

定期的なランチミーティングやランチセミナーを開催し、学内の新しいSDGs研究を探し、新しい取組を常に模索しています。これらの活動を通して、SDGsに取り組む研究者コミュニティが拡大し、新たなSDGs研究を次々と創出するための機会や環境を作り続けています。

III-5 社会貢献WGの取組み(1)

社会貢献WGの使命と目的

社会貢献WGでは、地域において大学が果たす役割や連携について、SDGsに繋がる社会貢献活動の観点から考え、以下の施策を企画して実施に移しています。新型コロナウイルス感染症拡大防止の観点から、社会貢献WGの取組みのいくつかはオンライン中心で行われています。



(1) ICTを活用した離島教育環境改善事業

離島地域の自治体や学校を対象とした調査を行い、得られたニーズや知見をもとにした教育課題を改善しています。ICTを活用した場合、離島の小中学校に向けた大学教員による遠隔授業や実験、大学生による進路相談、教員向け研修やSTEM・プログラミング教育支援、職場体験や社会見学の提供などが想定されます。

(2) 子どもの貧困問題への対応

沖縄県は全国と比較して「子どもの貧困」に関連する課題が多く、その解決に向けて、琉球大学に所属する教育・福祉・医療の専門教員がチームとなり取り組んでいます。具体的には、家族の支えが少ない状況で10代での妊娠・出産を迎える若年の母子を対象としたシェルター事業があります。出産前後の時期に必要な医療的・身体的・心理的なケアを専門スタッフが連携して提供し、安全・安心な出産の実現と、その後のスムーズな育児に向けた知識やスキルの獲得を目指しています。

(3) カーボンニュートラルの推進

カーボンニュートラル推進や環境問題に取り組んでいる県内のエネルギー関連施設と連携し、一般の小学4～6年生親子を対象とした公開講座として取材会を設けています。

カーボンニュートラルの推進



天然ガスを利用したコージェネ設備を参加者自ら取材
(ロワジュールホテル那覇)



エネルギー新聞を作るため自分で取材した写真を見ながら、記事を下書き

1作品は、全国かべ新聞コンテスト
(経済産業省資源エネルギー庁主催)で入賞しました！



Ⅲ-5 社会貢献WGの取組み (2)

(4) 地域との協働事業における SDGs 目標の対応状況の可視化および評価への展開

「琉球大学開学 70 周年記念事業」の一環として、琉球大学が地域と連携して取り組む事業を動画で紹介し、「地域連携企画展」としてオンラインで公開しています。琉球大学の特長的な取り組みである「医療・健康長寿」、「地域振興」、「次世代育成」、「島嶼型先進研究」といった分類のほか、SDGs のゴールごとに分類されており、新たな連携事業の展開に繋がる工夫をしています。

(5) SDGs の概念を取り入れたキャンパスツーリズムの展開

沖縄の文化、歴史、自然には魅力があり、多くの修学旅行生が県外から訪れます。修学旅行生を対象として大学での研究成果や沖縄の魅力、SDGs の概念を取り入れつつ体系化したプログラムで発信しています。

また、本学のコンテンツを利用した学びと長期滞在・観光を両立させるスタディケーションの課題抽出を行っています。



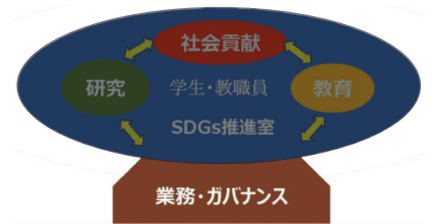
▲修学旅行生への SDG s に関するミニ講義

(6) 国際貢献の見える化と方向性の確認

2020 年から 2 年間は海外への渡航や海外からの招聘ができなくなったため、本学で行われていた様々な国際協力・貢献が極端に制限されました。しかし、パンデミック以前から使っていたオンラインでのコミュニケーションを駆使して、活発な交流が展開しています。

Ⅲ-6 業務・ガバナンスWGの取組み(1)

琉球大学が教育研究機関としてSDGsの達成に貢献する役割を果たすためには、「SDGsとは何か」という理解や、本学がSDGsの達成に大学としてどのように取り組んでいるのかという情報は、学生及び教職員に十分共有されなくてはなりません。また、ステークホルダーの一員である地域社会に本学におけるSDGsの取組みとその成果を広く発信し、取組みをさらに推進するため、地域社会とのパートナーシップを構築していくことも重要です。こうした目的のもと、以下の取組みを行っています。



(1) SDGs 推進室 Web サイトの開設

琉球大学のSDGsに関する取組みやイベント等の情報を学内外に発信するため、SDGs推進室Webサイト「琉大SDGs (RYUDAI × SDGs)」を設置しています。琉球大学のSDGsに関する情報を集約するWebサイトとなっており、学生及び教職員のSDGsへの当事者意識の醸成、SDGsについての理解と取組の推進、さらには学外のステークホルダーとのパートナーシップの構築に資することが期待されます。

今後は、文字や写真のみではなく、動画を活用した情報発信など、SDGs推進室Webサイトのさらなる充実に取り組みます。

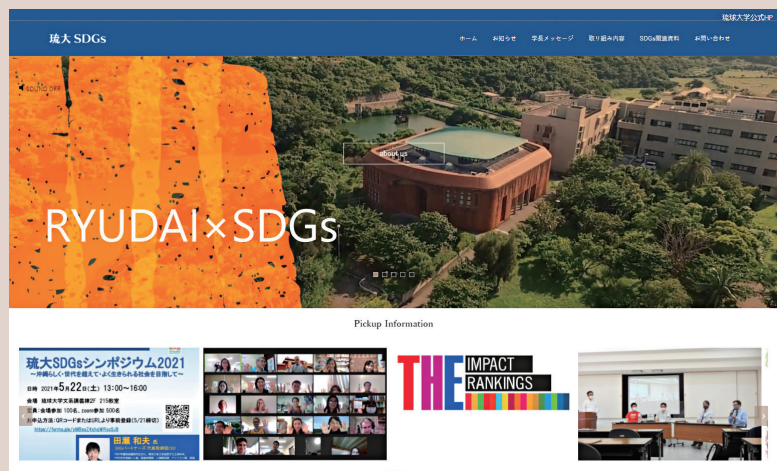


図 琉大SDGs (RYUDAI × SDGs) のトップ画面
<https://sdgs.skr.u-ryukyu.ac.jp>

(2) SDGs に係る教職員アンケート調査報告書の作成

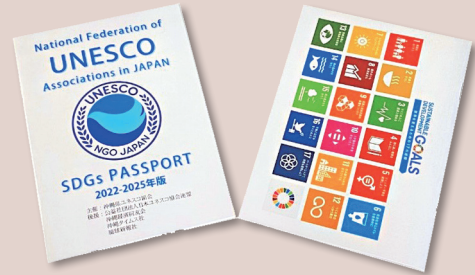
SDGsへの基本的理解や自らの業務との関連性をどの程度認識しているかを把握するため、SDGsに係る教職員アンケート調査(2021年3月実施)について、集計と分析の結果を報告書として取りまとめ、SDGs推進室Webサイトで公表しています。本学教職員のSDGsに対する理解や当事者意識をどのように醸成していくのかが問われており、調査結果から、「SDGsという言葉では理解していても実際の行動には至っていない状況がある」ということが明らかになりました。いかにして教職員がSDGsへの当事者意識を持ち、「自分ごと」として捉えてもらえるのか、学内コミュニケーションの活性化により、SDGsへの理解を深め、連携・協働して取り組む「具体」の設定が今後重要となります。

報告書 URL <https://sdgs.skr.u-ryukyu.ac.jp/%e9%96%a2%e9%80%a3%e8%b3%87%e6%96%99/>

III-6 業務・ガバナンスWGの取組み(2)

(3) 「SDGs パスポート」の活用

学生及び教職員のSDGsの取組みを後押しするツールとして、「SDGs パスポート」を活用することになりました。これは、琉球大学を含む沖縄県内の企業・団体の協賛を得て、沖縄県ユネスコ協会が発行したもので、社会活動やボランティア活動に参加して「ボラン」というポイントをためる仕組みで、30 ボランをためると、沖縄県ユネスコ協会の認定証を取得できます。身近な取組みから地域社会への関心を持つことで、学生及び教職員のSDGs意識の向上に繋げていくことが期待されます。



(4) 「THE 大学インパクトランキング 2022」へのエントリー

イギリスの高等教育専門誌「Times Higher Education (THE)」が実施し、SDGsの枠組みを使って大学の社会貢献度を測る「THE 大学インパクトランキング 2022」に琉球大学にとって強みとなる(したい)11項目(前は全17項目)にエントリーしました。

エントリーの結果、総合ランキングの対象となった世界1406大学中で401-600位、国内27位にランクインしました。総合ランキングは各大学のSDGs別に算出されたスコアのうち、SDG目標別ランキングにおいては、SDG12(つくる責任つかう責任)が世界101-200位、国内5位に、SDG1(貧困をなくそう)が世界101-200位、国内8位に、SDG14(海の豊かさを守ろう)が世界101-200位、国内10位にランクインし、高い評価を得ました。

琉球大学は、これからもSDGsの達成に貢献する活動に取り組み、様々なパートナーと積極的に連携・協働し、持続可能な社会の実現に向けて行動します。


SDGs カテゴリ	 SDG1 貧困をなくそう	 SDG14 海の豊かさを守ろう	 SDG12 つくる責任 つかう責任	 総合
世界ランク	101 - 200 位 ／ 769 校	101 - 200 位 ／ 452 校	101 - 200 位 ／ 604 校	401 - 600 位 ／ 1406 校
国内ランク	8 位タイ ／ 41 校	10 位タイ ／ 40 校	5 位タイ ／ 46 校	27 位タイ ／ 76 校

表 THE 大学インパクトランキング 2022 における本学の主要スコアー